知恵キラリ
キラッとひかる 企業の知恵をご紹介

京鹿の子絞の技を生かし伝統産業の新たな市場を切り拓く

代表の松岡輝一さん

社内一貫生産を強みにして市場ニーズを素早く反映したものづくり

創業以来、伝統的な京鹿の子絞の技法を使って、フォーマルな訪問着や帯を作ってきたが、ライフスタイルの変化で着物離れが進む中、「新たな市場開拓を目指して、洋装への技術展開を進めている」と松岡輝一さん。以前、着物の色柄をそのまま落とし込んだ洋装アイテムをパリで出展したことがあるが、現地の人は「面白いね」と感心してくれるものの、大きな売り上げにはつながらなかったという。「アウトプットを意識していなかった」と振り返る。

そうした反省を生かし、今から3年前、京商の海外販路開拓支援事業を活用し、フランスで活躍するデザイナーとのコラボで、ちりめん素材を使ったスカーフを開発した。海外で人気のトレンドカラーやデザインを取り入れたほか、京鹿の子絞の中でも同社が最も得意とし、企画デザインから試作、量産まで社内で完結できる「板締め絞」に特化することで海外での販売コストを下げ、市場

株式会社京都絞美京

代表者／松岡 輝一
住　所／京都市中京区壬生中川町 2-3
ＴＥＬ／075-812-7777
https://kyoto-shibori.com/

事業内容／京鹿の子絞の中でも、伝統的な板締め絞等の技法を使って京呉服や帯、洋装ファッションアイテムを企画・製造している。

競争力を高めることに結びつけた。パリ最大の見本市などに出展し、バイヤーから注目が集まり新規取引にもつながったという。

デジタル技術を掛け合わせ得意の技法をさらなる高みに昇華

板締め絞は、木の型で生地を挟んで染め分ける手法で、独特のにじみ感や濃淡が魅力だが、疋田絞などのように、つまんだり結ったりすることでできる立体的な表現ができなかった。また、近年では木型を製造する職人の高齢化により、板締め絞そのものの存続が危ぶまれている。伝統産業を取り巻く環境が厳しさを増す中、「得意分野を磨いて、オンリーワンを目指す」と松岡さん。

他業界で活用が進んでいる3Dプリンターをいち早く取り入れ、デジタルで作った型を板締めに生かすことで、今まで難しかった複雑で立体的な絞り商品を開発することに成功した。子鹿の角をイメージした新感覚の立体柄のストールやスカーフなど、まるでワッフルのような見た目と柔らかでふわふわした風合いが、アッパーミドルの女性層を中心に人気を集めている。「私たちがファッションリーダーになることで、後継者の育成につなげたい」と意気込みを見せる。

パリの世界的見本市に出展

デザイナー・アドバイザーとの商品開発の様子

新感覚の立体柄のストール

チャレンジ精神を忘れず絞りの総合ブランドを目指す

百貨店などのお客様からのニーズに応え、京鹿の子絞のオリジナルバッグやルームシューズ、ボウタイなども提案。絞りの総合的なファッションブランドとしての展開を目指している。

もともと、加工業からスタートした同社だが、先代がオリジナル着物のブランドを立ち上げ、現在はデジタル3D絞を手がけるなど、「時代ニーズに合わせ、失敗を恐れず挑戦し続けることが、私たちの強み」と松岡さんは話す。今まで培ってきたバックボーンに先進的な技術、発想をプラスし、伝統産業の新たな市場を切り拓く京都絞美京。飽くなきチャレンジ精神から生み出される次なる商品に胸が高鳴る。

知恵のポイント

★Point.1 他分野への技術展開

和装で培ってきた京鹿の子絞の伝統技法を洋装アイテムへと展開。単なる技術転用ではなく、市場がどんなトレンドやデザイン、価格を望んでいるかを吸収し、アウトプットを意識した今までにないものづくり。

★Point.2 伝統と革新の融合

業界で普及していない3D プリンターを導入し、板締め絞の魅力を生かしつつ、立体感あふれるオンリーワンの商品を開発。先進技術に注目し、自社の強みを磨き高めることで、価格競争に頼らない付加価値を発信。

★Point.3 公的支援制度の活用

京商の国内外販路開拓支援事業などを積極的に活用し、異分野の知恵やノウハウ、ネットワークを取り入れることで、小規模事業者一社だけでは難しい新規商品開発や海外での展示会出展などを効果的に実現。

応援します!
経営革新・知恵の経営に取り組む企業のご相談にお応えします。
【相談無料】TEL.075-212-6470
中小企業経営支援センター知恵産業推進室